

山形県立寒河江高等学校 学校だより

ぶん すい れい  
**分水嶺**



平成 30 年 2 月 28 日

第 11 号

## 三年生の船出を祝う-荒波越え 柔軟に逞しく-

校長 小川 秀人

“春は名のみ 風の寒さや” 弥生・三月を迎えるというのに、朝晩の風は身を切るように冷たく、本格的な春の訪れには、まだ少し間がありそうだ。雪が多く、凍てつくような寒さに見舞われ続けたこの冬の厳しさは、受験に臨んだ三年生たちにとって、生涯忘れられないものとなるのであろう。百九十名の三年生が三月一日、晴れて卒業の日を迎える。卒業生を待ちかまえる、変化の激しい、荒波のごときわが国の社会情勢を思うとき、「どのような困難に直面しても柔軟にかつ逞しく対応し、心身の健康を失わず、社会の中で自分を生かす場所を、焦らずに見つけてほしい」と、心から願わないではいられない。

昨年の四月に本校に着任して以来、私の目にする生徒たちの活動は、ほとんどの場合三年生がその中心にいた。新入生歓迎行事に始まって、校歌・応援歌練習、運動部の地区大会・県大会、風雨に苦しめられた夏の初めの体育祭、文化部の発表会やコンクール、野球の全校応援。暑い盛りに行った校長面談、笑顔や熱気に溢れた寒高祭、百年近い伝統のマラソン大会…。こうして書き連ねてみると、その時々生き生きと活動する三年生の姿が、鮮やかによみがえる。三年生たちは、これらの行事を完璧にやり切ってくれた。一つの行事を成功させるために、また試合に臨むために、どれだけ多くの生徒が知恵をしぼり、汗を流し、顔つきあわせて議論を重ね、励まし合って厳しいトレーニングを続けたことか。しかし、それは社会に出たときに、とても必要とされる能力を、各自が身につける訓練でもあったのだ。それを実感するのは、もう少しだけ人生が先に進んでからなのであろう。

在校生にとって、三年生は常に一番身近なお手本であった。社会に出てからも先輩の姿を後輩が見ていることを、どうか忘れないでほしい。決して命を粗末にはしてはいけないし、この先の人生において、その力の何分の一かを、社会のために役立ててほしい。卒業し、校門を出たら、当分の間は振り返らず、懸命に学び、生きてもらいたいけれども、君たちにとっての母校が、樹齢百年の桜並木に囲まれたこの愛すべき「寒高」であることは、生涯胸に刻んで生きてもらいたい。卒業ほんとうにおめでとう。

### 第21回東北高等学校放送コンテスト(2/3~4 盛岡)

朗読部門：奨励賞受賞 柏倉さくら (2-3)

# 【推薦入試】国公立大20名合格を果たす

今年度の推薦入試結果がほぼ出揃った。国公立大学の20名合格は、近年で最も多い数値となっている。私立大学では久しぶりに明治大学に1名合格者を出すことができた。

- ★ 国公立大学（推薦20名） ← H29：17名  
山形大（10）、山形保健医療大（3）、米沢栄養大（1）、新潟大（2）、弘前大（2）  
前橋工科大（1）、群馬県立女子大（1）
- ★ 私立大学（推薦15名）  
東北芸工大（6）、中央大（2）、明治大（1）、青山学院大（1）同志社大（1）他
- ★ 短期大学（推薦6名） 米沢女子短大（5）、東北文教短大（1）
- ★ 専門学校（推薦6名） 国療山形病院看護学校（1）他 ※下線：県内設置校

## 2学年「MT探究」発表会

### 一年間の研究成果を発表 大きな一歩を印す

2月14日(火)の午後、寒河江市市民文化会館及び中央公民館を会場に、本校にとって初めてとなる「2年次 MT探究発表会」が行われました。全64グループに分かれ、一年間にわたって重ねてきた研究成果のポスター発表を行い、さらに全体から選抜された6グループがステージ発表を行いました。中間発表会で受けた指摘を、研究の深化・発展に生かしたグループも多く、来年度より「探究コース」を導入して本格的な取り組みに入る本校にとって、運営上の課題も明確になり、次年度以降この取り組みを継続するにあたって、貴重な第一歩となりました。

助言者をお願いした谷地高校・鈴木校長先生、寒河江工業高校・高橋校長先生には、中間発表会に引き続いてご参加いただき、温かくかつ的確なアドバイスを頂戴しました。またこの発表会にご参加いただいた4名の学校評議員を代表して、鈴木PTA会長から感想をいただくことができました。研究に当たった二年生、そして指導に当たられた先生方、本当にご苦労さまでした。

## 寒河江高校・谷地高校合同展 盛況裡に終了

本校と谷地高校との「キャンパス制」行事の一環として例年開催され、今年で五回目を迎える「合同展」(美術部、書道部、茶華道部)が、2月3日から7日まで、山形市「アズ七日町」に移転した『県芸文美術館』で行われ、多数の観客で賑わった。インフルエンザが猛威を振るい、2月1日まで本校が学校閉鎖となってしまった影響を受けて、開催期間を一日短くしての実施であり、担当した教員や生徒の皆さんには、会場準備に苦労をおかけすることとなってしまったが、毎年県高総文祭で上位の賞を受賞し、全国高総文祭の常連でもある両校の作品のレベルは高く、土日を中心とした五日間の開催で三百人を超える人がギャラリーを訪れ、展示された作品に見入っていた。2月4日の日曜日には、本校茶華道部による茶会も開かれ、たくさんの方がおいしいお茶を堪能し、至福のときを過ごす姿が見られた。充実した、すばらしい合同展であった。